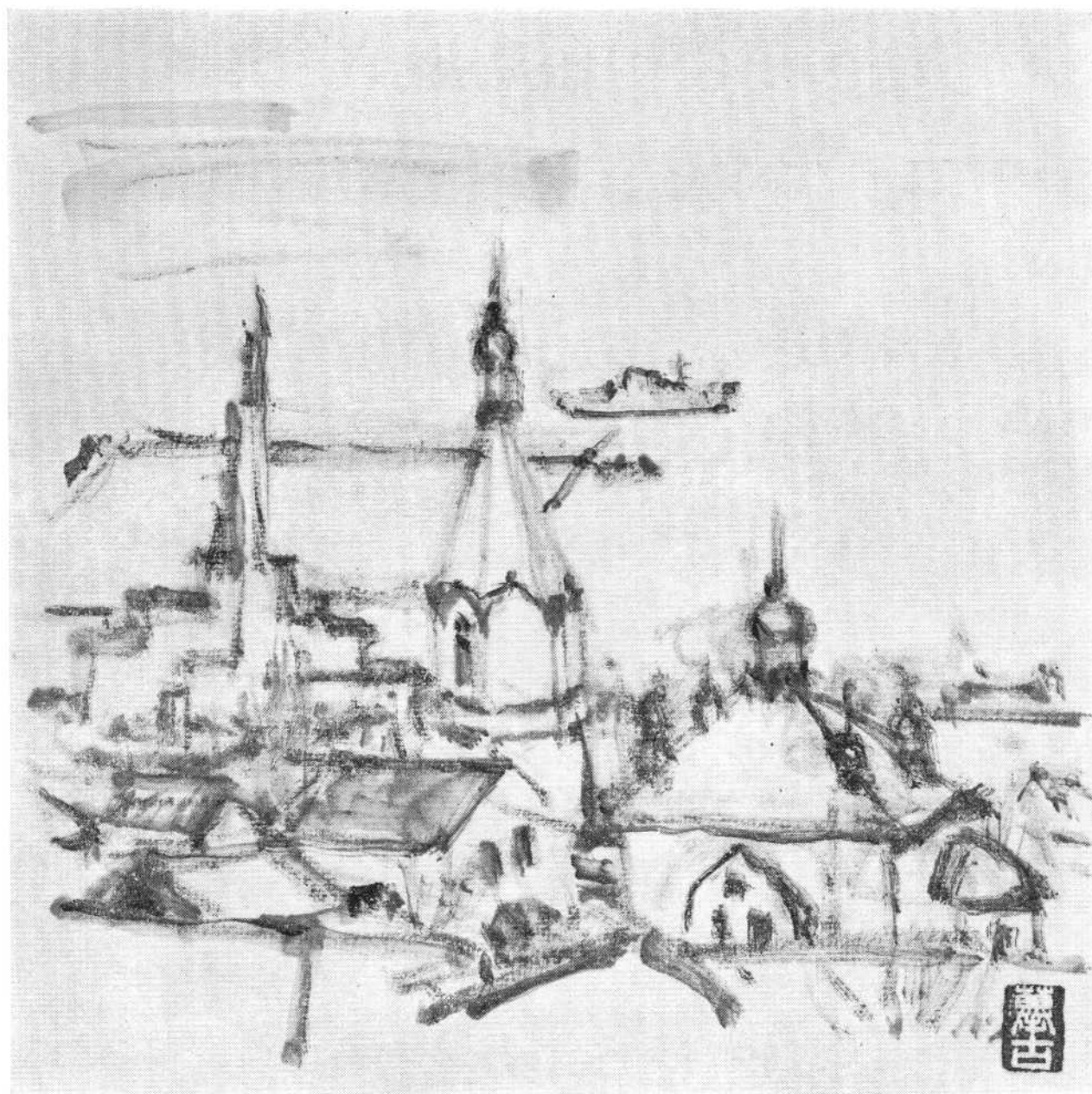


# 東京白楊だより

第7号

59.8.1



『ハリストスと港』 (1984年)

田辺謙輔 (昭2年卒) 作



白楊ヶ丘同窓会東京支部

旧制函館中学校  
函館中部高等学校

# 全員参加の交流を

支部長 村上敏夫



昭和六十年は母校開校九十周年を輝やかに迎えることとなります。

白楊ヶ丘同窓会を主軸として、「函中九十周年記念協賛会」がこの春結成されました。母校教育の一層の振興、充実に寄与することを目的として、五、二〇〇万円の募金をする計画であります。募金の実施計画については、各期卒業年度の幹事諸兄を通じて、又は各支部より会員皆さまに呼びかけがあると思いますが、その節は母校振興のため相応のご配慮をお願いいたします。

当東京支部は会員二千名を越える現況で、昨年組織の若干の変更と規約の一部改訂を行い、行動する支部への基盤作りをいたしてまいりましたが、今尚皆様のご期待に副い得ないことを反省しています。然し事務局を担当される方、各種行事担当の

方々の多忙の中でのご協力は正に奉仕そのもので感謝に耐えないところであります。

支部の存在目的としてはいろいろな徳目をあげることが出来るでしょうが、要は全員参加の交流ということが大切なのではないのでしょうか。

募金のための機関に終ったり、運営幹事だけの自己満足に終始してはならない。会員各位が嬉々として交流するための材料を作ったりしていく地道な努力が必要であろうと反省しています。他面その遂行のためには会員皆様のご意見がいろいろな場所と時に於て被見され、事務局はそれを吸いあげて、支部発展のために役立てなければならぬと痛感致しております。

十月十九日は「マツヤサロン」にて五十九年度の大会を開催することにしておりますが、多数の方々をご参加下さって盛大な懇親会となるよう、ご協力賜りたいと思っております。

今年には変化の激しい年です。会員皆様のご健勝とご発展を念じて、現況のご挨拶を申し上げます。

# 函中創立九十周年

## 協賛会を設立

創立九十周年記念は、来るべき百周年記念と校舎全面改築問題の準備段階となるものである。

その九十周年を明年に控え、協賛会を発足させるべく、去る三月三日、有志による発起人会が開かれ、協賛会推進に第一歩を踏み出した。



笹野文七函館支部長

長が出席した発起人会では、まず、基本的な方向付けを行い、次に会則、役員、事業計画の大綱を審議した。

△総会▽ ついで三月十七日、母校において協賛会総会が開催された。

総会は同窓会が中心となり、PTA、母の会の代表者などが参加した。総会では、まず、会則案について原案どおり議決、役員案については協賛会長に笹島吉平同窓会長(41期)を、会計担当役員に葛西善一郎(43期)佐藤一雄(44期)名取晃一(54期)を、監査に藤井英雄

(37期)清水信勝(41期)水野修一(42期)の各氏をそれぞれ選任した。

なお、副会長、顧問、委員団については若干名を選んだものの、更に役員会において検討を加えることにした。事業計画とそれに伴う五千二百万円にのぼる資金計画案については、骨格案として一応了承をみた。更に検討を要すべきものとして、前記役員会に一任された。

△役員会▽ 四月六日、役員会が開催され、副会長、顧問、委員団の追加人選、各支部各期との連絡事務等を審議した。

まず、協賛会のかなめの職となる事務局長に三河新太郎氏(45期)を選任し、役員追加選任及び事業計画等の細部のつめは、役員会が設ける小委員会に審議を付託した。



# 昭和五十八年度事業報告

## 一、一般概況

昭和五十八年度は、十月の年次総会におきまして、規約の改正による組織の変更と改選期到来の現執行部の留任を決定し、引き続き歴史ある支部活動の充実が図られることとなりました。

## 二、総務関係事項

昭和五十九年三月三十一日現在、支部会員登録数二、一五五名、前年比四七名増加、役員氏名は左の通りであります。

役員会は、常任理事会（新規約では理事会）を四回、理事会（新規約では評議員会）を二回開催いたしました。予算、決算審議、規約改正審議、総会

開催関係、組織運営等々活発かつ建設的なご審議をいただき業務執行に反映させて参りました。

総会は、昭和五十八年十月二十一日、港区乃木坂の健保会館において盛大に開催されました。

母校ならびに本部・他支部との交流関係では、札幌支部総会（58・11・5）白楊ヶ丘同窓会総会（59・2・27）、中部高校卒業式（59・3・10）に支部役員が各一名宛出席し、交流を図りました。

会報は、第六号を八月一日付にて二、五〇〇部作成、会員に配付いたしました。

## 昭和五十九年度役員

（○印は理事）

支部長	村上敏夫（昭8）	評議員	和田貞一（大11）
副支部長	池田和行（昭18）		北川有光（大12、大13、大14、大15）
	小泉龍彦（昭25）		佐瀬順夫（大15）
	伊東克郎（昭21・22）		大川原雄三（昭2）
	黒川陸郎（昭29）		○小畑文雄（昭3）
監事	菊地勝衛（昭6）		荒川正夫（昭4）
	宮本武雄（昭8）		林鳳一郎（昭5）

菊地勝衛（昭6）	伏見滋夫（昭7）	加藤敏雄（昭8）	松原竹造（昭9）	加藤孝一郎（昭10）	高尾正保（昭11）	前田徳尚（昭12）	相馬正樹（昭13）	太刀川善弥（昭13）	三上佑（昭14）	名取肇（昭15）	菅原茂夫（昭15）	笹島正秋（昭16）	佐藤文三（昭17）	池田和行（昭18）	渡辺保二（昭19）	吉田治作（昭20前）	武田好司（昭20後）	伊東克郎（昭21・22）	納代正信（昭23・24）	小泉龍彦（昭25）	○福津達男（昭25）	多和田裕（昭26）	種田忠夫（昭27）	山口ヒロ子（昭28）	○黒川陸郎（昭29）	○野村実（昭30）	○吉田精吾（昭30）	○渋谷昌平（昭31）	○真船昭（昭32）	北原耕太郎（昭33）	藤岡達郎（昭34）
----------	----------	----------	----------	------------	-----------	-----------	-----------	------------	----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	------------	------------	--------------	--------------	-----------	------------	-----------	-----------	------------	------------	-----------	------------	------------	-----------	------------	-----------

## 顯

## 問

荒井浩（昭35）	○越後谷宏（昭36）	林高祐（昭37）	小原洋一（昭38）	○菅原大作（昭38）	本田和彦（昭39）	佐賀達郎（昭40）	富田寿明（昭41）	○高木隆（昭42）	後藤豊（昭43）	佐野実（昭44）	小林康（昭47）	○長島裕司（昭48）	青木和彦（昭50）	斎藤鎮雄（大8）	和田貞一（大11）	田中清玄（大13）	北川有光（大13）	大川原雄三（昭2）
----------	------------	----------	-----------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	----------	----------	------------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------



# 昭和五十九年度事業計画

今年度は、新規約による組織運営の定着化に留意しながら、支部会員の皆様のご協力を得て次のような事業を進めていきたいと考えております。

## 一、総務関係

- (1) 役員の内  
    (イ) 母校卒業式  
    (ロ) 本部役員会  
    (ハ) 同窓会総会 出席の定例化
- (2) 未登録支部会員の発掘推進
- (3) 評議員未定の期および評議員数が基準数に満たぬ期の評議員選任ならびに女性評議員選任の推進
- (4) 会報発行
- (5) 会員名簿改訂版の発行

## 二、組織関係

- (1) 組織拡充推進(総務関係)(2)共同推進)
- (2) 会費納入の促進

## 三、事業関係

- (1) 大会開催

## 四、その他

- (1) 母校創立九十周年記念事業協賛

## 支部規約の改正について

白楊ヶ丘同窓会東京支部規約は、かつての在京函中会が同窓会の東京支部として発足した昭和五十二年十一月、当時の本部会則をモデルとして制定された経緯があります。その後時日が経過し、支部活動の活発化に伴って具体的な取り決めや表現があればより会務の執行の円滑化が図られると考えられる条項や、実態とかけ離れている部分等が散見され、かつモデルとした本部会則がその後全面改正されている等のこともあって、現執行部は規約改正を計画、数次の小委員会での成案を得、常任理事会・理事会の審議を経た上、昨年度の総会に於て改正新規約が満場一致で承認されました。以下新規約の主な改正点をお知らせします。

### 一、議決機関の変更

旧規約では、総会が議決機関でしたが、新規約では、年度幹事で構成する評議員会(旧理事会)が議決機関になりました。

### 二、「総会」から「大会」へ

議決機関が総会から評議員会に変更になりましたので、形式的なシャシオン総会は、実質的な会員大会(懇親会)に衣更えします。

## 三、役員任期の変更

旧規約の任期二年を三年に変更し、じっくり支部活動に取り組んでいたたくことにしました。(現執行部は全員留任し、暫定任期二年を勤めることになりました)

## 四、その他

評議員数の会員数スライド制、剰余金積立割合、会計年度等のほか、解釈について疑問が生ずる部分については極力具体的に明記しました。

## 第八回東京支部大会開催のお知らせ 10月19日(金)マツヤサロンにて

今年度の大会の日程が次のとおり決まりました。

昨年十月の総会で決定した新規約により、今年からその名も「総会」から「大会」へと変更し、和やかな親睦を大きなねらいとすることになりました。

会場も、昨年までの健保会館から六年ぶりにマツヤサロンに変更し、皆さんに喜んでいただけるよう新しい企画で着々と準備を進めております。

どうぞお誘いあわせのうえ、ふるってご出席ください。

●とき 59年10月19日(金) 午後5時30分より

●ところ 「マツヤサロン」

千代田平河町全共連ビル6階

電話(二六五)三三〇一

地下鉄赤坂見付下車徒歩7分、永田町下車徒歩2分

●会費 六、〇〇〇円

### 会費納入のお願い

会費納入の時期がまいりました。

59年度会費二、〇〇〇円を郵便局払込用紙をご利用のうえ、お払込みくださいますようお願いいたします。

昭和58年度収支決算

(58. 4. 1から  
59. 3. 31まで)

(59. 3. 31現在)

- ・収入決算額 3,491,919円
- ・支出決算額 2,458,352円
- ・収支差引残高 1,033,567円  
(内 訳)
- 定期預金 900,000円
- 普通預金 124,066円
- 現金 9,501円

○58年度決算

- ・年会費収入は予算の91%の実績となり、100%にあと少しというところ。会員の皆様ありがとうございました。
- ・今年度の収支決算残金から前年度繰越金948千円を差引くと、84千円残ります。つまり、前年度繰越金に手をつけず、まるまる温存されたこととなります。
- ・改正前の支部規約では収支決算等残金はすべて次年度へ繰越しておりましたが、今回から新規約により32万円を積立てることにしました。

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費 収 入	1,269,000	運 営 費	939,448
寄 付 金 収 入	93,500	消 耗 品 費	9,305
利 息 収 入	30,956	印 刷 費	90,190
総 会 費 収 入	940,000	通 信 運 搬 費	41,840
名 簿 等 頒 布 収 入	20,000	会 合 会 議 費	47,615
雑 収 入	189,510	常 任 理 事 会 費	140,462
小 計	2,542,966	理 事 会 費	162,206
前 年 度 繰 越 金	948,953	本 部 派 遣 費	256,590
		会 費 払 込 料 負 担 費	30,600
		総 会 準 備 費	160,640
		事 業 費	1,438,804
		会 報 印 刷 費	153,000
		会 報 送 料 費	161,554
		会 報 諸 費	31,000
		総 会 諸 費	1,040,720
		雑 支 出 計	52,530
		小 計	80,100
		次 年 度 繰 越 金	2,458,352
合 計	3,491,919	合 計	1,033,567

昭和58年度決算剰余金 1,033,567円は、規約第19条にもとづき次のとおり処分します。

積立金積立額 320,000円  
次年度への繰越額 713,567円

昭和59年度収支予算

(59. 4. 1から  
60. 3. 31まで)

○59年度予算

- ・前年度実績をもとに、概ね前年並の予算といたしました。
- ・会費収入は700名を予定しておりますが、この納入如何が支部発展消長に大きく影響しますので、格別のご協力をお願いします。
- ・支出のうち運営費は、前年度実績が恒常な姿なのかどうか、もう一年状況を見極めるため、昨年とほぼ同様の予算を組みました。また、事業費は昨年予算と全く同額を計上しました。

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費 収 入	1,400,000	運 営 費	1,030,000
寄 付 金 収 入	1,000	消 耗 品 費	10,000
利 子 収 入	30,000	印 刷 費	100,000
大 会 収 入	1,000,000	通 信 運 搬 費	50,000
名 簿 等 頒 布 収 入	10,000	会 合 会 議 費	60,000
雑 収 入	130,000	理 事 会 費	150,000
前 年 度 繰 越 金	710,000	評 議 員 会 費	170,000
		本 部 派 遣 費	280,000
		会 費 払 込 料 負 担 費	40,000
		大 会 準 備 費	170,000
		事 業 費	1,410,000
		会 報 印 刷 費	180,000
		会 報 送 料 費	190,000
		会 報 諸 費	40,000
		大 会 諸 費	930,000
		大 会 諸 費	70,000
		雑 支 出 計	100,000
		予 備 費	741,000
合 計	3,281,000	合 計	3,281,000

『あらがわず、埋もれず』

函館中部高校長（45期）

中村 力



今春の全国的な天候不順は函館もその例に洩れず、私が原稿依頼を受けた六月上旬に、校庭の遅咲きの桜、寒山、普賢蔵の古木が吹きこぼれるように咲きほこっていました。

じつと寒さをこらえて凍害を避け、また決して咲く事を忘れはしない桜のように、環境にあらがうことをせず、自ら埋もれる事もない生き方が、長命でかつ立派な仕事を成し遂げた人々の心掛けかとも思っています。

五月三十一日に、協賛会役員、卒業四十年、五十年などのふし目を迎える同窓生、生徒、教職員等の手で植えられたポプラも、しっかりと根付きました。本校でのポプラの植樹は実に八十年ぶりの事です。

六月七日に恒例のプール開きを行いました。道費による上屋の完成で今年からは屋根の下です。かつて全国制覇を果

たした先輩の後を継げるように、まず泳げる生徒を量的に増やそうと思えます。ポプル記念館（更衣棟）もブロック建てで改築しました。

九十周年の前年ということもあり、窓サッシの更新、自転車置場増設なども含め、一億余の道費が投入されました。有難い事です。

同窓会で購入した白楊ヶ丘会館の改装工事もたけなわで、七月中旬からは合宿に、研修事業に大いに活用させていただきます。

九十周年記念協賛会も着々と組織が固まり、各支部、各期の動きも活発になって参りました。百周年の前段にふさわしい記念式、行事、事業が成功するよう御支援をお願いします。

私も同期の募金の他、ささやかながら応分の拠出を致したいと思っております。

私事です。昨年からの入院で大変ご心配をおかけしました。今からでは遅いかも知れませんが「あらがわず、埋もれず」一日でも多く健康を保ち、陸続と続く後輩に対して、物質的なもの他に、何かプラスになるものを伝えたいと願っています。

皆様の御活躍をお祈りします。

## ポプラ苗木、記念植樹

来年創立九十周年を迎える函中部高



ポプラの苗木を植える函館中部高のOBたち

来年、創立九十周年を迎える函館中部高校（中村力校長、千二百六人）で三十一日、ポプラの植樹祭が行われた。三月に発足した九十周年協賛会（笹島吉平会長）の事業で、ポプラは同校の象徴になっている木。

同校は明治二十八年（一八九五年）、函館尋常中学校として発足。九十周年の記念式典は来年秋に行われるが、協賛会が記念事業の第一弾として植樹祭を計画した。

この日は、大正二年（一九一三年）に卒業した田中誠一郎さん（八九）をはじめ

め、二十歳代から八十歳代までのOBと生徒会代表ら約四十人が参加し、前庭に高さ二メートルのポプラの苗木を植樹した。同校では「すくすく伸びる白楊（ポプラ）魂がわが校の伝統。早く大きくなってほしい」と話している。

（59・6・1付北海道新聞掲載）



# 随筆

## 『六十年前の優勝杯』

和田 貞一

(大11年卒、24期)

今年の正月早々に、或る友人から函中ゆかりの珍しい品を頂戴した。「暮に家のガラクタを整理したところ、逝くなつた兄貴の遺品の中から、こんなものが出て来た。自分が持っていて、余り意味がないし、貴君は、たしか函館中学出身と記憶しているので、これをお譲りしよう」との事であった。

それは高さ二十センチ位の小さな賞杯(カップ)で、正面には月桂冠の図柄の中に「優勝」と彫ってある。ここまでは極くありふれたもののだが、裏側の文字に眼を見張った。贈・小高賀茂氏・全国中等学校競泳大会優勝記念・大正十四年・函館中学校水泳部と並べて彫ってあるのを見て、思わず声をあげた。全国制覇を遂げた時の優勝杯のミニチュアを作ったものを函中からコーチ小高氏に贈ったものだったのである。

小高賀茂氏については、昭和四十年刊行の「七十年史」に、時任厳さんが「思い出」と題して、東京の芝浦で行われた全日本中等学校水上競技大会に優勝した回顧録を載せているが、その中に次

の様な一文がある。「……そして日本の水泳の草分けの一人である当時の早大水泳部主将小高賀茂氏、先頃物故された前水連会長高石勝男氏のような、我々に過ぎた立派なコーチを招聘して下さった学校当局、林部長の英断も、確かに全国制覇の原動力でした」とあるが、これが立派な紹介になると思う。

小高賀茂氏は昭和十五年に若くして逝去された。このカップを私に譲ってくれた友人は小高桂男君とあって、賀茂さんの実弟、私とは昭和二年に王子製紙に同時入社した、いわば同期生なのである。

去る六月二日、佐瀬順夫さんの肝煎りで、「在京二十八回生」の会が開かれた時、私もカップを携えて、特別参加させて貰った。時任さんの語る当時の想い出話を中心に、大いに函中を語り合う楽しい一夕を過ごしたが、このカップの処理については、今秋東京での白楊ヶ丘同窓会の時に、函館から出席の方に託して、中部高校に届けて頂く事とし、それまでは私が大切に保管する事に、皆さんの賛同を得たのである。

いづれその時に、函館中部高等学校のスポーツ関係記念品の一つとして、六十年振りに奇しき経過の下に里帰りしたこのカップが、原物の優勝杯の側に展示される事ともなれば、目出度き事と思う次第である。

## 『スポーツと勉強』

伏見 滋 夫

(昭7年卒、34期)

これには少々異論をとなえる人もあると思いますが、小生の体験より得たことでもあり、頑張り方によっては或る程度両立すると思うものであります。現に同期生でも、先輩の中にもスポーツをやりながら学業の方も立派な成績で卒業し、社会に於ても成功している人を私は何人も知っておりません。

世間では、今でもともすればクラブ活動をやってはいよいよ成績がとれない、或いは立派な学校に入れないと云う人が多いのですが、要は本人次第で、結局「やる気」があるか、ないかと云う問題と云うのです。(現に私の息子二人も高校に入ったらクラブ活動をしませんでした。これは本人自身の問題なので親は干渉しませんでした。)

私の体験より申し上げますと人間なんでも「やる気」が大事です。今、優良企業は内部の人材を養成するのにこの「やる気」を大きく取り上げております。

ここで少々私の生いたちを申し上げますと、小学校は弥生小学校で四年生の時より野球やり、中学校でも二年生で野球部に入りました、五年生で主将、投手であり夏の甲子園行の朝日新聞社の大会では準決勝戦で、伏兵室蘭中学に敗れ、道代表にはなれませんでした。が、実力は十

分あったと自負しております。

現にこの年の春(六月)に函館新聞社主催で東北、北海道選抜中等野球大会の第一回が函館にて開かれ、東北と北海道より二十校参加しました。決勝戦で夏の覇者になった、札幌商業と対戦して七対六で破り、優勝しました。(この大会は翌年文部省の介入で第二回より中止となりまして、優勝旗とカップ五個は未だ母校にあります。一昨年函館に立寄り、母校に行つてたしかめて来ましたので、間違いありません)

室蘭中学に敗けたのは相手を見くびり、油断したのが敗因でした。決して勝負では相手を見くびってはいけません。常に全力投球です。

私の家は父が先生あがりで、商売をしたものでもと資本も余りないので、所謂殿様商法で何ん度も失敗しました。それで少年時代から、「自分はまともな大学に行けない」と考え、中学校の三年生の頃から授業料のいらぬ、海軍兵学校を目指して勉強しました。いつも野球の練習を終えて八時頃帰宅し、それから十一時、十二時まで学習したものです。

結局ある事情で海軍兵学校は受けず、小樽商高(現小樽商大)に入學しました。……結局「やる気」があればなんでも出来ると云う確信を得た次第です。

## 『顧みよ』

小島 一彦

(昭13年卒、40期)

五十年昔の事をと在東同期幹事に託されて、この投稿と成りました。函中旧制五年の歲月ノ何と全人的な育ての場であった事よ。昭和八年吾々が入学した当時、極く自然で、かつ大らかな雰囲気を校内に醸成し乍らも、時代の潮流を捌きつつ、至高の教育を志向され、確かと、リードして頂いた先生は、千葉精一先生を始め、豊かな個性・風格を備えた多才の方々であった、と今も思う者でありませぬ。兎に角、先生らしい先生、先生そのものが居られた時代だった、とも思う。又印南先生の「健康第一」との御自身の体験の教えは、今も脳裏に定着している。有り難い事だった。

斯かる環境の中で、同期の面々は、銘々、本質的な個性・素地を曝け出しつつ、素養の培養・増殖をし合う事が出来、又五十人ひとクラス年毎の組み替えによって、相互の触れ合い・認識・信頼を深めたものであった。何十年も会わなかった旧友が忽然と同期会に現われても、即座に歓談の輪の中で融和出来るのも、その昔の御蔭なのであらう。

又中学の旧友達は幅広く社会の多方面に分散して居り、話題も多彩・豊富であり、これ亦、魅力ある処である。

在学当時、相承けた諸々の恩顧に感謝

の念を新たにします。

吾々の同期世代も、早や人生の三節目に入っていますが、今や日本人は、更めて、「世界の日本人」として、人類の叡智を生かすべき、「知恵の時代」に立っている、とも申せましよう。函中の連綿たる同窓、多士済々の集団が、次の世紀でも、大きなエネルギー源となり、精華を挙げねばならぬでしょう。小生の父も五人の兄弟もかつて在籍した。

函館の母校に、永世の栄光あらん事をまた恩師の方々・同窓の各位に益々の御健勝を、と祈念するものであります。

## 『高校時代のことなど』

藤田 文子

(昭37年卒、64期、旧姓阿部)

仕事、研究、育児、雑事に追われる毎日の中で、本当のところ、高校時代を思い出す機会は少なくなりました。記憶力もいって悪い方なので、「何か書くように」といわれ、ハタと困ってしまつた。が、幸か不幸か、高校時代は日記をつけていたので、それを取り出してみた。

今ほどではないにしろ、高校時代も忙しかった。試験もかなりひんばんにあったようだが、本も結構沢山読み、童話作家を夢みてさえない童話も書き続け、ピアノを練習し、料理、手芸にも挑戦した。三年のときには、「語研部」といういかめしい名前のついた英語のクラブの

責任者として、一段と忙しくなつた。とりわけ文化祭の英語劇を準備するため、まる二か月間、心身ともにすり切れそうな毎を送り、劇が終つた瞬間、汗とともに涙が頬を伝つて流れた思い出もある。この二か月間のブランクは大きかつたようで、その後成績は下がる一方、大学受験を控えて苦しい毎日となつた。昔も今ものんびりした生活と無縁なのは、やりたいこと、やらなければならぬことが、常に能力の限界を越えるほどに多いためであらう。

お習ひした先生方にはいろいろな思い出がある。なかでも、接した期間も短く、その後お会いする折りもなかつたのに、日本史の高島先生の記憶はいまだに鮮明だ。それまで日本史を担当していた先生が組合の専従になられ、そのあと高島先生がみえたのだから、教わつたのは半年くらいだったのではないだろうか。「戦争中、お国のためと生徒を戦場に送

つたことをすまなく思っている」とおっしゃつた先生のことばが、私には忘れられない。中部の校歌は半分忘れたが、先生が日露戦争に関連して教えて下さつた「旅順開港約なりて……」の歌はいまだにそらんじている。一年の三学期最後の日の日記には、「高島先生の授業は拍手と先生の笑顔の感激的なラストシーンで終りました」と書かれている。生徒が先生に拍手を送る授業というのは、そう多くないと思う。

中部の先生方はもとより、クラブの先輩、友人からは、在校時代もその後も実に多くのものを得、心から感謝している。三年の時の担任の丹治先生は、どういふわけか私のことをよく「ラッキー・ガールだ」とおっしゃつたが、自由な雰囲気の中中部で高校生活を送れたことは、私にとって本当に幸運だつたと思う。

現在、津田塾大学学芸学部  
英文学科助教

## 短歌

昆 干 布

(四十五期) 池田 和行

(阿波野青敵主宰「かつらぎ」同人)

干し反しつ々昆布数へあるごとし  
棒となり板となりたる干昆布  
揚舟や吹きさらしの昆布干場  
そこばくの大根と昆布干場かな

## 俳句

(四十一期) 三上 掃石

夕虹やタワー灯にともし五稜郭  
修道女の手作りなりし春の木靴  
青嵐笛山深く碧血碑



# 同期の集い

## 『初夏の二八期会』

この度の二八期会は特殊の意味をもつものとなった。先輩和田貞一（二四期、王子製紙顧問）が私共同期の時任巖君を中心とした函中水泳部が全国優勝をとげた時の優勝杯のレプリカを入手されておるので、二八期生一同にお見せしたいとの事……これは渡りに舟とばかりに会場も先輩にお願いでして銀座、たい家で六月二日五時から開催。参会者、和田さんを始め、立役者時任君、他、加藤修一郎、神山誠次、銀家元男、田島助太郎、細川輝彦、佐瀬順夫等の常連である。卓上に飾られたレプリカを見れば、「贈小高賀茂氏、全国中等学校競泳大会優勝記念、大正十四年、函中学校水泳部」とある。小高氏は時の水泳部のコーチであり、故人となられた小高氏の弟さんを通じて和田さんのお手元に渡っていたものである。皆々当時の栄光に先ず酔った。当夜の寄せ書きの一つに、「函中全国水泳大会優勝杯のレプリカを前において懐しく楽しいノ」とある。和田さんの提案の「このレプリカは函中（中部高校）に保管方をお願してはどうか」ということに皆有難く賛意を表した。

初夏の一夜を存分に語りつくし、例の

様に校歌「玄冥の北の一道」を高唱、続いて応援歌「宇賀の浦浪」「黄塵渦まく谷地頭」「俺どん選手」をどなり、秋の再会を約し、土曜の夜の銀座のそぞろ歩きをたのしんで別れた。

（佐瀬順夫記）

## 昭7卒（34期）

昨年十月十五日同期会を東京に於て開きました。

同日正午、池袋サンシャインビル五七階の緑丘会館に集合、昼食をとり、デラックスバスにて、伊東温泉に向った。

出席者二十二名

札幌一名、函館 四名

金沢一名、東京 十六名でした。

午後六時頃伊東園ホテル到着、七時より宴会となり、歌、踊りと多士済々で十時頃閉会、翌十六日朝食後散会しました。

幹事代表 大原 孫七

伏見 滋 史

尚今年は七月二十八日に札幌に於て開くことになっております。



## 函八会（昭8卒・35期）

在京同期生中心に東北、北陸、関西在住者を含め34名で函八会という名で時折集っている。このたび六月九日幹事の加藤敏雄さんの関係で渋谷初台の三菱の寮で20名が集って旧交をあたためた。

五十年振りに佐々木孝充さんが新潟から、加藤寛治さんが、鎌倉から馳せ参じてくれた。又函館より松田幹事が特別に参加してくれ、賑やかな一夜を過ごした。尚会当日になり加藤幹事が急に医師の診断の結果入院ときまり、欠席になったことは残念であったが、早く全快されて雄姿を同期生の前にみせてくれることを祈る。

（村上敏夫記）

## 函中41期同窓会東京大会

卒業後既に四十有余年。この間、我々大正後期世代は人生の華かな時代を昭和の動乱の血生臭い流れの中で、外部の力により干渉され、或いは戦後の混乱の中で、自己の意志を抑え、尚かつ、本人の好むと好まざるとにかかわらず、忠君愛国と滅私奉公という過去の儒教的教養に災いされて、社会の為、人の為をモットーに生活して来た。

然し、漸く今、六十路を越えて人生の峠を登りつめた時、我々仲間は今漸く自分

自身の生活に戻り、未だ経済文化の第一線で日々の生き甲斐を採求している者もあれば、或る者は田舎に入って自然を相手に本当の人間としての生活を築き、或る者は娘の結婚相手の外国人の国へ移住し平穏な生活に人生の価値を見出し、夫々がこれからの人生への対応の仕方模索から脱け出して、将来の指向の定まる年令に至っている。

このようにして、我が同期生仲間は、尚自己の生命の灯が燃え盛っていることを確認するかのようになり、戦後のいつの頃からか、函館の生活圏に住むグループと札幌・東京グループと夫々連絡を保ちながら、隔年札幌・函館・東京の順に同期会を開催し、お互いの健在を確かめ、無事を喜び、併せて過ぎし青春を語り、母校の歌を当時に還って声を張り上げて歌い、時間が無限に続くかのように会は続く。

昨年は東京番にて、十月九日、東京目白の椿山荘を第一会場に、新宿センタービルの五三階ニュートーカー系のストーンヘッジを第二会場として、同期会を開催した。

五時半の案内、六時開宴の予定の処、待ち切れぬかのように、函館・札幌組は五時を待たずに参集、椿山荘の名園の見物もそこそこに、待合のロビーに早くも車座になって話が始まる。

普段は、東京に住んでいながら、東京の同期会にも顔を出さぬ者が現われる

と、とたんに四十余年の隔りが突然フィードバックされ、俺お前の仲に戻った頃、ご招待の大河原・萩原両先生が来場。

申込二十九名の内当日の欠席二名、二次会のみ出席一名を除いて、二十六名の顔がそろったところで、撮影場にて記念写真を撮った後、華やかにシャンデリアと赤い絨氈に彩られた『塔の間』に入る。既に日は暮れて外は暗いが電飾に照らされた庭園の緑が窓外に浮かび、部屋の名の通り、窓の正面に石塔が見える。

会場は正面の大テーブルに大きな盛花が飾られ、バイキング式に料理が賑やかに美味そうに並べられている。

遠来の友に歓迎の意を表し、獅子の時代を生き延びた峠の群像は何時の時代も続くが、我々も亦、お互いに今後共健康に留意して交流を深めようとの幹事の挨拶に続いて、大河原先生の発声にて本日の会

の盛会と参会者の健康を祝して乾杯し、宴は始められた。

ホステスのいない場内の雰囲気は途中で沈むのではないかという幹事の気遣いも杞憂に終り、全くの仲間同志だけ水入らずの中に、盃が重なるにつれて、談論風発留まるところを知らず、熱気さえ帯びてくる。話は戦中戦後の苦労話に始まって、現在の仕事のことから中学校時代の先生や授業のことに及ぶや、まるで今自分がその場に臨んでいるかのように次から次へと続いて行く。

午後八時を回ったところで、次の会場への移動の時間ともなり、会は一同の『玄冥の北の一道』の合唱で一区切りとなり、車を連ねて新宿へ向う。

新宿の第二会場ストーンヘッジには、第一会場に出席出来ず韓国帰り成田空港から駆け付けた同期会の会長三浦祐晶君

が来場して、我々の到着を待っていた。

高層ビルの眼下は夜霧に霞んでいたが、夜景が美しく、物珍らしさもあって、新たな酒興の一助となった。

三浦君との間に夫々又久潤の挨拶を交した後、再び宴は始まり、同時に第一会場の話の続きが始まった。

斯くして、我々一同は夜の更けるのを忘れ、飲みかつ語り合い、旧交を暖めて楽しい時を過ぎたが、流石にそろそろ疲れも見え、お互い名残を惜しみながら、十一時を回った頃再会を約して会は終りを告げた。(文責 提)

### 昭16卒 (43期)

① 五九年五月一九日(土)

② 京橋「ざくろ」にて

③ 出席者

朝井欽一、阿部海三郎、井筒吉彦・巴、名改祐三、大塚准司、乙部甚弥、加藤良雄、児玉文夫、所田真美、新謙三、鈴木達男、統 豊、橋本甲四郎、前田正明、宮崎裕三、安岡修一、小泉広美、笹島正秋、以上 十九名

④ 毎年少なくとも一回は本州在住者の会合がもたれており、また函館支部のメンバーとの合同交歓会も会場を函館と東京近辺の交互に設定して、旧友の物故者の冥福祈念、恩師の招待、母校への寄付、寄贈などをしております。

今年は九月上旬函館にて交歓会を予定しております。特筆すべきことは、夫婦同伴を特に歓迎するようにしております。定年退職該当年令でもあり、所属その他に大幅な変更がみられる時期ですので、今回同期生の名簿の改訂も行き、できるだけ新しい情報を流すように心掛けています。(笹島記)

### 昭19卒 (46期)

① 日 時 毎年一月第三金曜日

② 場 所 ニュートーカー

③ 出席者 恩師を含め約二〇名 (銀座スキヤ橋)

④ 内 容

会計報告、函館、札幌同期会の近況報告(函館、札幌幹事出席)お互いの健康をたたえ、6時〜9時まで歓談し、最後に函中校歌「玄冥の北の一道」を斉唱し散会。

⑤ 幹 事 渡 辺 保 二

(勤務先 TEL 二八一〇二〇二)

笹 島 秀 夫

(五三五―五五七)

★ ★ ★ ★ ★

### 表紙絵画家のご紹介

田 辺 謙 輔 氏 (昭2卒)

春陽会々員、全道美術協会々員、  
横浜国立大学講師

1932年 旧制横浜高等工業学校建築  
学科卒業、田辺三重松・水  
谷清の指導を受ける。

1934年 春陽会初入選以後文展紀元  
二千六百年奉祝展ほか数多  
くの美術展に出品受賞。

1954年 渡仏、アカデミー・グラン  
ジョニユールに学び、オー  
ジャムに師事、以後外遊十  
数回。

1980年 横浜市主催により画業45年  
大回顧展を開催。

(表紙題字は小泉龍彦氏・昭25卒筆)

玄羊会 (昭25卒・52期)

我々は昭和六年生れがその主力といふところからエトヒッジに、「函中校歌」「玄冥の北の一道」の玄の字をあしらって「玄羊会」と称して居ります。その玄羊会が昭和五十五年に函中そして大沼で卒業三十周年記念を催しました。それから五年来、六十年は卒業三十五周年記念を箱根で六月十五日催す事にきまりました。おそらく百名を越す参加と思えます。その時のテーマは「友情と健康」です。又、三十五周年記念の歌がきまりました。

誇れ、流転、玄羊会

作詞 滝川 宏  
歌 二上 達也

「台詞」懐しいなあ 想い出すなあ

紅顔のあのころを

一、おさがりマントに ゲートルつけて

黄線の帽子は 誇りなり

夢と希望に 満ち満ちて

歩き通った 千代ヶ岱

ヨイヤ／＼ ホコリ 砂山 ヤマセ風

二、一つ弁当 二人で食べて

物がなくても 心あり

ストープ囲むや ロマンに弾み

いつも豊岡 冷し水

ヨイヤ／＼ 遺愛 大谷 庁立高女  
三、斃而不止は 男のちぎり  
夏毀周に 伴あり

年輪重ね 道異なれど

朋遠方より 今ここに

ヨイヤ／＼ 臥牛の山に 響かせん

「台詞」三十五周年みんな笑顔で

逢えるなあ

タコポチ ドンカン元気かなあ

(小泉龍彦記)

函中二八会 (昭28卒・55期)

昭和五十九年六月十六日(土)五時より  
墨田区横綱ちゃんこ割烹吉葉において  
第五五期の同期会(今年で九回目を迎え



ます。)を開催しました。  
参加者二四名(内女性七名、一名二次  
会より参加)

青野先生がご出席になり、先生を囲み  
話が弾み、二次会まで全員参加、盛会の  
うちに終了。

翌日(十七日)は龍ヶ崎カントリーに  
おいて、有志参加でゴルフコンペを行  
いました。

※世話人 大沢 勘 八

船橋市習志野台三一五―二五―五〇四

☎〇四七四―六七―五三六五

田子 嵩 也

千代田区神田神保町二―一

北海道糖業株式会社

☎〇三一―二六四―八三二二

昭30卒 (57期)

五月晴れの五月三日(木)午後2時よ  
り、渋谷東邦生命ビル31階のレストラン  
「オスロ」で開催、出席者は遠く青森県  
五所川原から馳せ参じた兼平君をはじめ  
35名、渋谷随一の超高層ビルからの眺望  
は抜群、目がまわりそうなのは、高さの  
せい、それともアルコールの故かわか  
らないくらいメイテイ。ご馳走にも一同  
満足。  
来年は早いものでちようど卒業30周年  
にあたるので、函館にて全員集合しよ

と満場一致で決定、日取りも8月上旬が  
好都合ということになり、早速地元函館  
の幹事にプランニングをお願いすることに  
相成った。今から家族づれにしようとか  
ひとりりでゆっくりにくろぎたいとかそれ  
ぞれ早くも楽しい夢を追っているよう  
だ。乞うご期待。

あつという間に予定の5時を過ぎても  
話は尽きず、ほぼ全員が揃って二次会へ  
と足を運ぶ。そしてここでも時の経つの  
を忘れてしまうほど次から次へと楽しい  
話題でいっぱいだったのはスナックバー  
を貸切つての宴であったせいだけではな  
い、目に見えない強い絆で結ばれるもの  
があったからに違いない。  
(吉田精吾記)

昭33卒 (60期)

① 昭和五十九年六月二十二日(金)  
② 浜松町世界貿易センタービル39階  
「パールルーム」にて  
③ 出席 二十九名(女性十名)に恩師  
吉田信一先生の特別出席  
今年も内藤尚、紅谷弘一、中川匡亮、  
磯部美沙子(旧姓川村)諸氏の世話役で  
開催した。  
四〇五年前は十二〇三名の出席であつ  
たが、今年の名簿も六十七名に増え、出  
席者数も常に三十名となっている。  
そして毎年何名かずつ新メンバーが増

えている。

語り不足の二十五名が二次会へと繰出し、こちらも盛会で散会した。

### サンパチ会(昭38卒・65期)

- ① 昭和五十八年十一月二十六日(土)
- ② 「ホテル国際観光」にて
- ③ 三四人(内女性五人) 遠くは広島、地元函館からも出席者あり
- ④ 出席者の簡単な近況報告、欠席者からの近況報告の披露、名簿を配布して連絡先がわかっていない人の抜けがないかの確認、記念写真の撮影
- ⑤ 幹事 菅原大作
- (自) 182 調布市染地二一八―三

### 昭和59年度大学合格者数

区	分	現 役	浪 人	計
国 立	大 大	1 3 7	7 3	2 1 0 名
公 立	大 大	1 1	9	2 0
国 立	短 大	1 1	4	1 5
私 立	大 大	1 1 2	1 0 9	2 2 1
私 立	短 大	2 8	7	3 5

### 主な大学合格者

区	分	現 役	浪 人	計
北 海 道	大 大	2 2	1 5	3 7 名
北 海 道	大 大	4 5	7 6	2 4 7 1
室 蘭 樽 川	大 大	8 5	2 0	1 6 6 6 3 3 1 1 3 2 1 3 4 7 1 3 1 1 4 2 8
旭 弘 岩 東 千 東 東 横 金 静 京 大 札 東 早 明 中 津 慶 法	大 大	1 5	1 1	1 6 6 6 3 3 1 1 3 2 1 3 4 7 1 3 1 1 4 2 8
道 教 工 商 医	大 大	5 4	2 1	2 1 2 0 1 3 0 0 1 0 1 3 1 1 9 5 0 2 6
前 手 北 葉 京 外	大 大	1 5	4 2	1 1 1 2 0 1 3 0 0 1 0 1 3 1 1 9 5 0 2 6
語 工 国	大 大	1 1	0 0	2 3 1 1 2 1 6 4 6 4 0 2
沢 岡 都 阪 医 立	大 大	0 2	3 1	1 2 1 3 4 7 1 3 1 1 4 2 8
京 浜 幌 京 田	大 大	2 3	1 1	2 3 1 1 2 1 6 4 6 4 0 2
央 塾 応 政	大 大	1 1	2 1	6 4 6 4 0 2

ライオンズマンションE―1101  
 〇四二一(八六)三八六七  
 (勤) (財) 東京都予防医学協会  
 〇三(二六九)二一〇一  
 内線 二二八

**阿部良平氏**(本会顧問)  
 去る七月三日脳血栓のため逝去されました。  
 享年八十六才。自宅は所沢市上安松一三七三―一六、同氏には旧函中会以来、本会発展のために大変ご尽力をいただきました。ここに心からご冥福をお祈りします。  
 合掌

## 母校だより

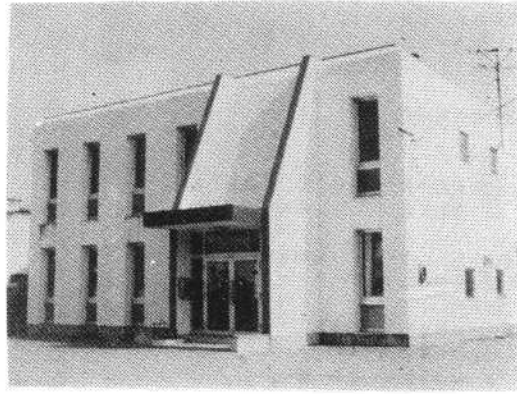
### 函中創立九十周年記念事業

#### 研修会館(仮称)の購入を決定

昭和六十年に迎える、函中創立九十周年記念に向け白楊ヶ丘同窓会として、メインとなる記念事業を検討中であつたが昨秋以来懸案としていた「研修会館」(仮称)の購入を、去る二月二十七日開催の臨時総会で満場一致で可決し決定した。

#### 維持運営は今後に検討

この会館は、市内的場町(十八番十一号)にある旧「自動車会館」で、新築以來今日まで全く使用されていなかったも



同窓会の購入した研修会館(仮称)の建物

ので、生徒の合宿可能な研修会館を建設して欲しいという、かねてからの学校や生徒側の強い要望に応えたものである。敷地約二百坪、建物は鉄筋コンクリート二階建てで、一階は約四十一・五坪、二階は四十坪となっている。場所は現校長公宅の隣接地で、学校にも近く、管理に便利という好適地である。

維持運営については、クラブ後援会で検討するという事で、その他の諸条件も慎重に討議の結果、同窓会の記念事業として最もふさわしいものと決定したものである。売買価格は約四、八〇〇万円。

## 編集後記

○会報にはやっぱり同期会だよりや随筆があつた方がよい、とのご要望もあつて、増頁のうえ充実をはかりました。これからもご投稿をお寄せください。  
 ○表紙は田辺先生にとくにお願いして懐かしい風景を早速画いていただきました。来年からは郷土出身の新進画家をご紹介頂こうと計画しております。

発行・白楊ヶ丘同窓会東京支部  
 編集・伊東克郎、吉田精吾  
 支 部 〇 160 東京都新宿区坂町一八  
 事務局 小畑文雄方  
 電話・(三五二)二〇二二